

1. 横断歩道橋の対応策について問う

日本の横断歩道橋（以下、歩道橋という）は道路交通の渋滞や交通事故に対処するために昭和40年代に急速に整備された施設である。これまで歩行者の交通安全に貢献してきた歩道橋であるが、その大部分が老朽化しており全国各地でも対策が課題とされている。

開成町には昭和44年に築造された開成小学校北側の延沢歩道橋と平成11年に築造された開成小学校東側のふれあい開成小前歩道橋の2つの歩道橋があり、共に神奈川県が築造したものであるが、延沢歩道橋については昭和63年に県道から町道200号線になったことから町に移管された。町が管理する延沢歩道橋については平成21年に補修工事が行われたのを最後に撤去方針が出されているが、この歩道橋は現在も通学路に指定されており毎日児童たちが利用している。また、保護者や地域住民の方々から塗装の劣化が激しく塗り替えを望む声がある。

町では補修工事は考えていないということだが、利用ニーズや現状をみると改めて方針の確認が必要と考えるが町の考えを問う。

① 歩道橋の現状確認は。

＜延沢歩道橋について＞

② 撤去方針に至るまでの経緯は。

③ 町施設としての位置づけは。

④ 方針の再確認を。